

## 平成31年 第2回帯広市教育委員会会議録

1. 平成31年 2月13日 水曜日 16時 ～ 16時45分  
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 教育委員会室に招集する。

### 2. 本日の出席委員

教 育 長	嶋 崎 隆 則
教 育 委 員	田 中 厚 一
教 育 委 員	藤 澤 郁 美
教 育 委 員	佐々木 しゅり

### 3. 本日の議事日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名について
- 日程第2 報告第6号 帯広市奨学生選考委員会委員の解職及び委嘱について
- 日程第3 報告第7号 平成30年度帯広市教育研究実践表彰並びに帯広市学校文化活動奨励賞について
- 日程第4 その他(1) 今後の事業予定について  
その他(2) 寄附受納について  
その他
- 日程第5 報告第4号 帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画(案)について【非公開】
- 日程第6 報告第5号 帯広市学校施設長寿命化計画(案)について【非公開】
- 日程第7 報告第8号 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について【非公開】
- 日程第8 報告第9号 給食費の改定についての答申について【非公開】

嶋崎教育長

ただいまから、平成31年第2回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

塩野谷委員より欠席の届け出を受けているため、出席委員は4名であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(佐藤企画総務課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、田中委員及び藤澤委員を指名いたします。

日程第2、報告第6号、帯広市奨学生選考委員会委員の解職及び委嘱についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

報告第6号、帯広市奨学生選考委員会委員の解職及び委嘱についてご説明いたします。議案書51ページをお開きください。まず、帯広市奨学生選考委員会委員に委嘱しておりました、狩野康弘氏及び得能優輝江氏から委員を辞任したい旨の申し出がありましたことから、平成31年1月31日付で解職したものでございます。また、解職いたしました委員の後任といたしまして、野呂俊夫氏及び松本奈津子氏を帯広市奨学条例第9条及び帯広市奨学条例施行規則第7条の規定に基づき、平成31年2月1日付で帯広市奨学生選考委員会委員に委嘱したものでございます。委嘱期間につきましては、任期途中での委員補充のため、前任者の残任期間であります平成31年4月30日までとなっております。報告は以上です。

これから質疑に入ります。

ありません。

嶋崎教育長  
各 委 員  
嶋崎教育長

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第3、報告第7号、平成30年度帯広市教育研究実践表彰並びに帯広市学校文化活動奨励賞についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

村松 部長

報告第7号、平成30年度帯広市教育研究実践表彰並びに帯広市学校文化活動奨励賞の決定についてご報告いたします。本日お配りしました、お手元の資料をご覧ください。はじめに、帯広市教育研究実践表彰につきましては、本表彰は教育研究及び教育実践に優れた業績を上げた学校や団体、個人を表彰する制度として、昭和54年度に発足以来、平成29年度までの39年間で、71団体、30個人を表彰しております。平成30年度も推薦をもとに選考の結果、団体で、帯広市立啓北小学校以上、1団体に決定いたしました。帯広市立啓北小学校は、今年度、帯広市教育研究所の教育実践協力校として15度目の指定を受け、校内研究を中心に、確かな学力と豊かな心を培うための授業づくりに取り組んでおります。国語と道徳

の2つの研究を進めており、国語科においては、一単位時間のみならず、単元を見通した国語科の授業づくりに取り組んでおります。道徳では、いち早く主題追求型の道徳の授業づくりに取り組んできたところであり、地域や保護者による学校支援活動も大変盛んであり、このような学校・家庭・地域が連携した教育活動は、子どもたちの健やかな成長を見守り育むだけではなく、確かな学力と豊かな心も培ってまいりました。また、今年度は北海道教育委員会の地域連携研修の実施地域の指定と併せて、十勝管内教育委員会研究実践協力校の指定も受け、開校以来築き上げてきた教育実践を多方面に発信するとともに、市内・管内の教育の充実・発展に大きく貢献しております。なお、受賞の経緯等の詳細につきましては、お手元の資料に記載いたしましたので、後ほどご覧ください。次に個人については、当初、帯広市立若葉小学校、飯島恵美子教諭、帯広市立南町中学校、野村香織教諭を被推薦者として選考してまいりました。しかし、今回、両教諭とも平成30年度北海道教育実践表彰を受賞したことから、要項中、表彰の対象除外についての記載がある第3条1項、同一内容の研究・実践で既に文部科学省、北海道教育委員会、北海道教育庁十勝教育局の表彰を受けたもの、同2項、同一内容の研究・実践で本表彰を受けた個人に該当するため、今回受賞を見送りましたことを申し添えます。続きまして、帯広市学校文化活動奨励賞につきましては、本奨励賞は、学校教育において優れた文化活動を行った団体や個人を表彰する制度として、平成2年度に発足したものであり、平成29年度までの28年間で、66団体、61個人を表彰しております。平成30年度も選考の結果、お手元の資料にございますように、第42回全国高等学校総合文化祭に出場し、放送部門、ビデオメッセージ部門において、全国96校が集まる中で最高位の優秀賞を受賞した、北海道帯広三条高等学校放送局、第7回ご当地！絶品うまいもん甲子園において、70チームが応募した北海道・東北エリア選抜大会を勝ち抜き、各エリア選抜大会を勝ち抜いた8チームが出場した決勝大会において、特別賞を受賞した北海道帯広南商業高等学校クッキング部、第68回全道高等学校演劇発表会に出場し、道内の地区予選で選ばれた17校が出場する中、部員3名ながら初の最優秀賞を受賞し、次年度開催される第43回全国高等学校総合文化祭への出場推薦を獲得した帯広北高等学校演劇部、全道高校将棋選手権大会男子団体において、3連覇を達成し、第42回全国高等学校総合文化祭、将棋部門男子団体に出場した北海道帯広柏葉高等学校将棋部、大山名人杯争奪第17回全国小学生倉敷王将戦道予選、低学年の部に出場して優勝し、本戦においては予選で2勝1敗だったものの、決勝トーナメントに進出した相手に善戦をした帯広市立柏小学校3年、一戸颯太

さん、歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール において、小学校低学年の部において、6,374点という応募数の中、金賞にあたる北海道知事賞を受賞した帯広市立明和小学校3年、平岡怜大さん、以上4団体、2個人に決定いたしました。なお、表彰式ですが、教育研究実践表彰につきましては、学校に出向いて表彰することとし、学校文化活動奨励賞は、個別に教育長室にお招きし、ねぎらいの言葉をかけながら表彰する形式で行っております。今後、委員の皆様のご都合などもお聞きし、日程の調整をさせていただく予定でございます。報告は以上でございます。

嶋崎教育長  
各委員  
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第4、その他に入ります。

その他(1)今後の事業予定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

山下調整監

学校教育部の3月の事業予定についてご説明いたします。議案書57ページでございます。3月1日に南商業高等学校におきまして、第58回卒業証書授与式を予定しております。以上です。

森川調整監

続きまして、生涯学習部に関する主な事業予定についてご説明いたします。生涯学習課では今年度最後となります帯広市民大学講座、昭和・平成から見えてくる新しい時代。次の世代につなげたいことを3月14日にとまちプラザで予定しております。次に文化課では市内の小中高校の合唱団が一堂に会する、帯広少年少女合唱祭を開催します。58ページ、図書館ではオカリナの伴奏とともに、日曜春の朗読会と朗読ワークショップを3月17日に予定しております。百年記念館では、学芸員が調査研究を発表する博物館講座、学芸員のしごとを3月9日に予定しております。59ページ、動物園では飼育員のガイド付きツアー春の裏側探検隊を3月9日に予定しております。最後にスポーツ振興室では帯広で生まれたスポーツ、ゴルフ大会を3月16日に予定しております。以上です。

嶋崎教育長  
藤澤委員

これから質疑に入ります。

市民ゴルフ大会が第26回ということで、調べましたら平成4年から始まっているそうです。帯広で生まれたスポーツということですが、全国大会というものはあるのですか。

河瀬主幹

平成4年に帯広市で新スポーツとして取り入れたものです。十勝管内に幅広く情報提供しておりますが、全国、全道までは広がっていない状況です。

藤澤委員  
嶋崎教育長

ありがとうございます。

他になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他(2)寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

佐藤 課長 企画総務課の寄附についてご報告いたします。議案書61ページでございます。1月分の寄附といたしまして、市外在住者の方より1件、1万5千円をこども学校応援地域基金にご寄附いただきました。企画総務課からは以上でございます。

村田 課長 学校教育課よりご報告いたします。市外在住者の方から1件、2万1千円を学校教育の振興のためとして、ご寄附をいただいております。

渡邊 課長 文化課よりご報告いたします。市外在住者の方から1件、2万1千円を文化振興のためとして、ご寄附をいただいております。

前原 館長 図書館よりご報告いたします。東和工研株式会社様より、20万円を図書資料充実のためとしてご寄附いただいております。

柚原 園長 動物園からご報告いたします。市外在住者の方から11件、市外NPO法人から1件、計28万4千円をご寄附いただいております。

嶋崎教育長 これから質疑に入ります。

各 委 員 ありません。

嶋崎教育長 別になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局 事務局から、その他説明事項はありますか。

事務局 ございません。

嶋崎教育長 事務局からは、特にないようですが、各委員から他にご意見、ご質問等があれば、お受けいたします。

各 委 員 ありません。

嶋崎教育長 別になれば、ここで、会議の進め方についてお諮りいたします。

日程第5から第8の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により非公開にしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各 委 員 異議なし。

嶋崎教育長 ご異議なしと認め、そのとおり取り扱いたします。

これより、会議を非公開といたします。

日程第5、報告第4号、帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画（案）についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長 報告第4号、帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画（案）についてご報告いたします。議案書1ページをご覧ください。帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画につきましては、去る1月17日に市議会所管委員会に、また1月28日、29日の両日に大空中学校区の保護者並びに地域住民の方々に対しまして、実施計画原案の説明を行いました。特段の修正を必要とする箇所はございませんでした。先ほどの保護者並びに地域住民の方々への説明会においては、両日合わせて40名ほどの参加者

があり、義務教育学校の内容をはじめ、校舎の改修、通学時の安全確保、少年団活動や部活動の活動場所の確保などについてご意見やご質問をいただいたところでございます。いただいたご意見につきましては、今後の実施にあたりまして、参考とさせていただきたいと考えております。報告は以上でございますが、今後につきましては、明日開催の市議会所管委員会に実施計画（案）を報告した後、次回の教育委員会会議において決定していただきたいと考えてございます。説明は以上です。

嶋崎教育長  
各 委 員  
嶋崎教育長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第6、報告第5号、帯広市学校施設長寿命化計画（案）についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

報告第5号、帯広市学校施設長寿命化計画（案）についてご報告いたします。議案書27ページをご覧ください。本案は昨年11月に原案を報告させていただいた後、帯広市立大空中学校適正規模の確保等に関する実施計画及び帯広市小中一貫教育推進基本方針の策定作業を進めてまいりましたことから、本計画との整合性等について検討を行ってきたところでございます。計画内容につきましては、考え方等に特段の変更箇所はございませんでしたが、計画の名称につきまして（仮称）を外しましたほか、議案書49ページ、第5章、1.長寿命化改修の優先順位におきまして、3段落目のなお以降で、個別の整備内容や手法等については、他の計画と整合を図る旨を追加させていただきました。今後は本会議でのご意見などを踏まえまして、市議会の所管委員会に報告し、次回の教育委員会会議において決定していただきたいと考えてございます。説明は以上であります。

嶋崎教育長  
佐々木委員

これから質疑に入ります。

49ページの優先順位の表については公開されているものでしょうか。

中野 部長

この計画書の原案の段階で既にこの図表5-1につきましては載せてございまして、提案の形で公表されておりますので、公表されているものと理解していただいて構いません。

佐々木委員  
中野 部長  
佐々木委員  
藤澤 委員

誰でも見ることができるということですね。

はい、そうです。

わかりました。

学校施設劣化状況を平成29年度に調査していますね。これによって長寿命化改修の優先順位を決めると思うのですが、今後どのようなスパンで調査されるのでしょうか。

篠原 課長 調査は全校、平成29年度に行っております。今後につきましては、改修状況等について見直し、法定点検等において劣化状況に変化があれば、その都度見直すという形で考えております。

藤澤 委員 それでは、平成29年度のような大掛かりな調査については予定していないということでしょうか。

篠原 課長 はい、今のところ予定しておりません。

藤澤 委員 ありがとうございます。

田中 委員 1点だけ質問します。49ページの第Iグループから第Vグループに分かれて、優先順位はこのように行うということだと思いますけれども、この中でも10年以内に長寿命化改修を行うIグループは、西小校舎から屋内運動場を入れるとかなりの数の計画になります。具体的にはさらにこの中から優先順位を決めることになるのでしょうか。例えば、西小と大空小では改修すべき場所などは違うと思うので、細かく確認しながら作業を進めていく考え方でよろしいのでしょうか。

篠原 課長 毎年度の予算編成の中で、次はどこの学校を行うのか協議をしながら、進めていく形で考えてございます。

田中 委員 わかりました。

嶋崎教育長 他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第7、報告第8号、平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

村松 部長 報告第8号、平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果につきましてご報告いたします。議案については本日お手元にお配りしております。この調査は全国的に児童生徒の体力・運動能力の低下傾向が続いたことから、その実態を把握・分析することを通して、その改善を図ることを目的に、平成20年度から実施され、この間、悉皆方式から抽出方式、震災による中止など、様々な形で実施されてきたものが、平成25年度より再び国の悉皆調査として実施されるようになったものです。小学校5年生、中学校2年生を対象に8種目の実技と運動習慣等を内容とする質問紙による調査が昨年4月から7月末まで実施され、帯広市では小学校26校、1,312名の児童、中学校14校、1,269名の生徒が参加しております。結果の概要についてご説明いたします。3ページには小学校男子、4ページには小学校女子、5ページには中学校男子、6ページには中学校女子の状況をそれぞれ各種目の記録結果、及び体力合計得点、各種目の過去3年間の経年変化を示した折れ線グラフ、全国との比較、視覚的に工夫したレーダーチャート等を掲載しております。実技の結果を見ますと、小学校5年生では、男子で全国平均を上回っているのが8種目中3種目、女子では全国平均を上回っているのが

6種目あり、男子は、昨年よりも4種目少ない結果となりましたが、女子は2種目多い結果となっております。また、体力テストの成績を得点化したものの総和である体力合計点では、男女ともに僅かに全国平均を下回りました。同じように中学校2年生では、男子で全国平均を上回っているのが9種目中、握力と立ち幅とび、ハンドボール投げの3種目となり、昨年より1種目多くなっております。また、女子では全国平均を上回っているものがございませんでした。しかし、体力テストの成績を得点化したものの総和である体力合計点では、昨年度よりも、男女ともに全国平均との差が縮まってきております。以上が実技の結果の概要であります。詳細については、今後さらに分析してまいります。今年度につきましても、これまでの文章やグラフなどによる公表に加え、種目ごとの記録やそれぞれを得点化したものの合計得点、全国を50とした場合の偏差値であるT得点、各種質問紙の回答状況など、学力に関する調査と同様に、地域の学校教育の状況に関する説明責任及び学校・家庭・地域が連携した体力等の向上の取組の充実等の視点から、本市全体の状況を数値で公表したいと考えております。しかしながら、体力や運動能力に関する調査は、児童生徒の体型や肥満度などにも影響を受けると思われる他、実施時期が実質4月から7月まで、約4か月間の期間のうち、学校の任意の期日であること、調査実施場所や施設・用具などが一定でないこと、児童生徒の服装や履物も様々であること、測定者の感覚や力量に委ねる部分が多いこと、学力の調査以上に条件の違いがあることなどを明らかにしながら、単に数値のみで判断できないということを公表の際には文章として添えたいと考えております。教育委員会では、これまでも第一に学校の指導の改善を働きかけるとともに、望ましい食習慣を促すパンフレットの作成・配布など、家庭での生活習慣の改善に向けた啓発に努めてまいりました。また、今年度から帯広市体力向上プロジェクトチームを設置し、北海道教育委員会の体育専科教員活用事業の成果を全校へ普及させるとともに、児童生徒の体力向上に向けた教職員指導力の向上や体力テストの正しい測定方法などにも着目し、すべての学年において体力テストの全種目を実施するなど、体力向上の具体的な目標設定に基づく取り組みや、一校一実践の継続的な取り組みなどに向けて学校への適切な働きかけを行いますとともに、関係機関との連携、特に保護者との連携を図るために市P連との情報共有に努め、本市の子どもたちの体力・運動能力等の向上と生活習慣の改善を図ってまいります。この後、各学校、市議会所管委員会である建設文教委員会の委員の皆様などに結果をご報告させていただき、本市のホームページでも公表してまいります。また、学力同様に各学校の結果の概要と取組状況等について、市のホームページと各学校



のホームページをリンクさせることで、本市の取り組みを総合的に発信してまいります。なお、北海道教育委員会によります市町村別の結果公表につきましても、これまで同様に同意しておりますことを申し添えます。報告は以上でございます。

嶋崎教育長  
佐々木委員

これから質疑に入ります。

今の説明の中に、児童生徒の肥満度や生活習慣なども影響してくるという話がありましたが、体力テストを行った学年だけでもいいのですけれど、肥満度の程度や生活習慣についての調査など、これ以外に調査をしたことはあるのでしょうか。肥満度が全国と比べてどうなのか、また、関係があるのかどうかもわからないのですが。

黒島 室長

全国体力・運動能力、運動習慣等調査につきましては、小学校5年生、中学校2年生、他学年については、帯広市体力・運動能力調査ということで、すべての学年で調査をしておりますが、生活習慣等の部分については除外しております。生活習慣等については、小学校5年生と中学校2年生のデータを基にして整理しているところですが、睡眠時間や日常的な生活習慣等、また、体格の部分で北海道は比較的肥満傾向にあることも捉え、その部分と運動能力との相関関係について、さらに整理しなければならないと認識しております。ただ、運動能力がすべて悪いというわけではなく、肥満等の関係がないわけではありませんが、握力等については、経年変化で良い結果となっております。

嶋崎教育長

今のお話は、子どもたちの体重等の身体検査の経年の比較からもあり得るという意味ですか。

村松 部長

今、室長からも話があったように、体型や生活習慣は体力に総じて影響があるだろうというのが全国的な傾向であります。各学校では身体検査をしている中でBMIを含めて、個々の子どもについてのデータは出しております。教育委員会で一括してデータを集めることは現在していませんが、各学校で個々のデータと個人の生活習慣等の分析をこれから進めていただく考えでおります。

佐々木委員

各学校で分析を進めた後はどのような扱いになるのでしょうか。

村松 部長

今、申し上げましたように、個々の子どもに対するアプローチは変わってくるということで、各学校では保護者に対して、家庭での生活習慣や早寝・早起き、朝ごはんなどの働きかけを強くしていくことや運動自体が少なければ、1校1実践の活動をしていくことなど、学校の授業改善はもとより、学校だけではなく家庭と連携した取り組みを継続的にしていくことが考えられます。

藤澤 委員

テストの時期的なこととか、測定者や諸条件が違うことについて、改善に向けてというお話がありましたけれど、まずは何を同一化するのか、例えば、学校の先生ではない人が測定するとか、具体的なことを来年度は予定していますか。

黒島 室長

具体的に外部講師での調査を取り進めるという具体的な計画はございませんが、小、中学校の連携の一環の中で、中学校の体育教師が小学校の教諭とともにチームを組みながら、適切な環境、衣服や靴等の条件整備をする中で、正しく正確に子どもたちの体力・運動能力を捉えるため、エリアごとに取り組みを進めている学校が近年増えてきております。今後もそれを推奨しながら、条件差によって結果に開きが出てこないように、ケアしてまいりたいと考えております。

田中 委員

体力検査について、先ほど部長からも言われたように、この数値については、それほど重く見る必要はないということには全く同意見です。ただ、知徳体と言われている、体は3分の1で重要な側面でもあります。知徳以上に体がないと、厳しいだろうとも思っております。一般論で小学校と中学校で子どもたちにどのように教えているのかお聞きしたいと思います。学力に関しては、子どもたちも勉強しなくてはいけないとか、良い点数をとらないといけないとか、目に見えた形でわかります。勉強が好き、嫌いという観点もあると思います。一方で体力に関しては、健康で生活習慣もきちっとしなければいけないということを、特に小学校、中学校の子どもたちに教えるのにはないかと思っています。もちろん病気のお子さんや障害を持ったお子さんもいますけれど、一般的には子どもは元気であるということになると思います。今のうちから健康や体力を維持することが大事だということをどのような場面で教えたらいいのかということ、いつもこれを見ていると思います。保健体育の授業の時間などで、そういう話はされているのでしょけれども、特に中学生にはしっかり教えてほしいと思います。スポーツの部活に入っている高校生を見ていると、とても意識が高いような気がします。夜10時には寝て7時には起きるとか、率先して自分たちのスポーツの向上を図っているというイメージがあります。その他の子どもたちは必ずしもそうではなく、例えば、就寝時間が遅いとか、食事の問題でもそうでしょう。なるべく早い段階で、きちっと教えてあげることが必要だと思っています。今、どのようにやられているのか、もしくは取り組みたいと考えているのか、教えていただければと思います。

村松 部長

体力・運動能力調査に関しましては、まずは、第一に体育の授業改善をしっかり行い、授業の中で子どもたちに基礎的な調整力や運動能力を身にしっかり付けさせることも目的の大きな柱になっております。しかしながら、運動習慣の調査があるということは、体力は単なる筋力や瞬発力、持久力だけではなくて、子どもたちがこれから生きていく上で、人生100年と言われておりますが、基礎体力という部分は、生活していく上で非常に大切だという国の考え方

もあるわけです。数値に表れている体力だけではなくて、体力がないと学力もしっかりしてこないということは、皆さんも共感して頷いていただけることかと思えます。今年度、学校教育指導訪問をする際に、この体力を点数のみで捉えていくのではなくて、子どもたちに、なぜこれをやっているのか、体力があることで朝の目覚めがいい。授業にも集中できる。しっかり食べることで健康な生活を送れる。早く走れるだけではなくて、背景には君たちの将来生きていく上で基礎をしっかり培っているという視点で、今後、担任から話をしてほしいということを、校長先生や教頭先生にもお話をしております。今後も体力テストが何のためにあるのかということも含めて、知徳体のバランスの取れた帯広の子どもたちを育ててまいりたいと考えております。

田中 委員  
嶋崎教育長

わかりました。

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第8、報告第9号、給食費の改定についての答申についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

中野 部長

報告第9号、給食費の改定についての答申についてご説明いたします。議案書53ページをご覧ください。本件は昨年11月19日開催の帯広市学校給食センター運営委員会で諮問しておりました給食費の改定について、去る1月28日に答申を受けましたので、その内容について報告するものでございます。55ページの答申書の写しをご覧ください。答申内容につきましては、給食費の改定は妥当であると意見が一致したとされてございます。答申の理由につきましては、食材価格の高騰により食育に必要な多様な食材の調達に困難になってきておりますことや、給食提供日数の増加により現行の基準日数では支障をきたすことが強く懸念されることから、保護者負担の増加に対する配慮は必要ではありますが、食育の推進など学校給食の役割を十分に果たすためには、改定は止むを得ないとの結論に至ったとのことでございます。また、3の付帯意見としまして、子どもたちの思い出に残る帯広らしい給食の提供を目指し、地場産食材の積極的な導入を進め、さらなる食育の推進に努めて欲しいとのご意見をいただいております。なお、諮問に係わる審議につきましては、昨年11月19日から本年1月28日までの間に計3回開催され、学校給食の役割、価格高騰の影響、給食費の改定の考え方などについて審議が行われ、答申書が取りまとめられたものでございます。今後は答申を踏まえまして、給食費の改定に向けて、必要な作業を進めてまいりたいと考えております。説明は以上です。

嶋崎教育長  
田中 委員

これから質疑に入ります。

1点だけ質問します。これは地元紙等で報道されていたと思いま

す。それを受けて、保護者の方などからご意見をいただいたケースはございますか。

稲葉センター長

昨年(2019年)の11月27日に各学校を通じまして、保護者の皆様に諮問の内容を周知する文書を発送させていただきましたけれども、直接保護者の皆様から反対のご意見等は寄せられてございません。

田中 委員  
嶋崎教育長

わかりました。

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

以上で本日の日程はすべて終わりました。

これをもちまして、平成31年第2回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。